市展を盛り上げよう

作品受付けは今月16日から

「市展」は十一月十日から十二日まで、市民会館で開かれますが、その出品受付けが今月十六日からはじまります。

「市展」も今年で数えて五回目。出品する人、観賞する人、ともに年ねん増えてますます盛り上がりを見せていますが、今号は、「市展」へ出品する作品の準備に余念がない、石井安生さん（新金沢町）と渡辺千枝子さん（金沢町一）をご紹介しましょう。

「人物」はごまかしがきかないだけにむずかしいですネと石井さん

書けば書くほど新しい線が生まれて楽しいですネと渡辺さん

質の高い作品を

石井 安生さん

市展へ出品するのは今年で三回目という石井さん。玄関にもご自分で描かれた油絵がかけられていて、すっかり生活の中に絵がとけこんでいる様子です。でも、本格的に油絵をやり始めたのは三年前からとか。

「高校時代は美術部だったんですが、社会へ出るとなかなか筆を持つ機会がなくてネ。でも三年前ですか、広報で油絵教室の生徒を募集しているのを見て、これだ、とすぐ申込んだんですよ。本当に十七し八年ぶりにキャンバスに向かいました。いまは、その油絵教室の受講生たちでつくったサークルに入って、楽しくやっています」

このサークル、まだ名前はないそうですが、今年の県展にもサークルから二人入選されたとか。

「去年からうちのサークルのメンバーも市展へ出品し始めたんですよ。ところがあとで運営委員の方に、出品数は増えたが、レベルが少し下がったといわれたものですから、今年は、昨年より質の高い作品を、とサークル一同張り切っているところです」

一つの目標として

渡辺枝恵子さん

今年初めて市展へ出品される予定の渡辺さん、種目は書道です。

「ベテランぞろいの中へ、まったくの素人の私が出品するなんて、少し恥ずかしい気もします。でも、市展は〝大人の文化祭〟なんだと考えて、出品することにしました」

書道は高校時代、少し経験したそうですが、本格的に始めたのは、昨年、公民館が主催している書道教室へ入ってから。

「書道教室のテーマが〝生活の書〟というものだったんですよ。それで、日常生活の中で、よく〝御祝〟とか〝御見舞〟を書く機会があるでしょ。そんな練習をするつもりだったんです。本当に大変な感ちがい。〝生活の書〟というのは、生活の中で書道を楽しむということなんですネ」

でも今は、書けば書くほどいろいろな線が生まれてくるので、筆を持つと大変充実した気持ちになるとか。忙しい中にも自分の時間をつくって練習に励み、良寛の漢詩を出品する予定だそうです。

文芸祭記念講演

十一月二十三日に変更

広報八月十五日号で市民文芸祭の記念講演会をお知らせしましたが、日程が次のように変更されました。

◆とき…十一月十二日の午前十時から→十一月二十三日の午後一時三十分から
◆ところ…市民会館→視聴覚ホール（図書館二階）
◆講師…斎藤文一氏（新潟大学教授）
◆演題…「宮沢賢治と天然」

「新津郷土誌」第二号を発刊

新津郷土誌料研究会（帆刈喜久男代表）では、このほど「新津郷土誌」第二号を発刊しました。A五版百十六ページ。一冊千円で市内の書店で求められます。

お買物、ご用命は市内で

表具
鈴木一心堂
一級技能士 鈴木正義 本町3☎2-2035

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6-12 TEL (4)5122